

平成28年度「市役所の仕事」花まる通信簿(平成27年度実績)

担当課	15農林水産課
-----	---------

Plan	◆事務事業の概要◆		会計区分	一般会計	事業通番	8765	事務事業コード	1561
事務事業名	生物多様性戦略推進事業				開始年度	平成20	終了年度	未定
種類	ソフト事業(任意)	根拠法令	無し		例規等	佐渡市生物多様性戦略推進会議		
将来ビジョン	1. 産業の振興 (2)生物多様性を基本とした販売戦略						H26:重点●政策○	○
H27施政方針	1. 人口減少対策 (4)産業の振興 ① 農林水産業の振興と担い手対策						H27:重点●政策○	○
H28施政方針	2. 島の魅力の発信とおもてなしの推進 (2)物語性のある魅力発信						H28:重点●政策○	●
事業概要	生物多様性推進組織の育成、東アジア農業遺産学会(H27.6月開催)の準備、佐渡棚田協議会の組織強化、第22回全国棚田(千枚田)サミット(H28年度開催)準備、生物多様性保全促進支援により、農林水産業の振興を生物多様性保全を基礎に環境と経済の活性化を目指す。 実施する事業の概要は次のとおり。 生物多様性保全への視点を持ち、普及啓蒙ができる民間団体の育成。 GIAHSの普及・啓発。 佐渡棚田協議会の運営、棚田サポーター制度、棚田米の販売。 全国棚田(千枚田)サミット佐渡実行委員会設立。東アジア農業遺産学会実行委員会設立。 また、GIAHS、生物多様性保全に関連する視察受け入れ等、交流人口の拡大推進に努める。							
対象	豊かな環境、農林水産業、観光業							
意図 (対象をどのようにしたいか)	トキを育む佐渡の生物多様性の豊かさの市民理解の浸透 生物多様性を保全・利用することによる環境と経済の好循環 都市との交流活動などによる棚田保全							

Do

◆将来ビジョン成長力強化戦略指標◆

項目名	戦略指標	H24現状	H31目標
持続的な経営の展開	主要農産物の販売額	6,294百万円/年	6,400百万円/年
販売ブランド力の構築	朱鷺認証米取組農家数	684戸(累計)	800戸(累計)

◆事務事業の目標(成果)指標◆

目標(成果)指標名		単位	26年度 実績値	27年度(評価年度)		28年度 目標値	29年度 目標値	31年度 目標値
算式	指標の算式			目標値	実績値			
	生物多様性という言葉の認知度	%	73	90	78	90	90	95
算式	認知度							

◆事務事業を構成する細事業の事業費・成果指標◆

枝番	細事業名			H26 決算額	H27 決算額		H28当初 予算額	H29以降の 予算の方向性		重点 細事業
	指標	目標(成果)指標名	単位	H26実績値	目標値	実績値	H28目標値	事業の方向性		
1	生物多様性戦略推進事業			15,432	9,567		13,694	予算	減額	
	指標	広報回数	回	14	15	17	15	事業	維持	
2	GIAHS推進(東アジア農業遺産学会・棚田景観含む)			2,047	15,854		5,267	予算	維持	
	指標	イベント回数	回	8	3	6	3	事業	維持	
3	朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会			4,983	4,500		3,000	予算	維持	
	指標	取り組み農家数	軒	539	670	525	530	事業	維持	
5	生物多様性戦略推進事業(東アジア農業遺産学会)			600	5,800		0	予算	不要	
	指標	来場者数	人	-	300	200	-	事業	終了	
6	棚田景観維持			4,068	1,671		264	予算	維持	
	指標	景観維持事業数	箇所	3	5	4	2	事業	維持	
7	佐渡棚田協議会			700	1,500		1,500	予算	維持	
	指標	会員数	人	48	100	52	60	事業	維持	
8	全国棚田(千枚田)サミット佐渡市実行委員会			0	0		11,113	予算	不要	
	指標	来場者数	人	-	-	-	700	事業	終了	

事業費の合計(千円)

財源内訳	国庫支出金	27,830	38,892	34,838
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	27,830	38,892	34,838

Check		◆事務事業を構成する細事業の評価◆			A：適正である B：検討の余地あり C：見直しすべき
枝番	細事業名	妥当性	有効性	効率性	課題と対策
1	生物多様性戦略推進事業	A	A	A	生物多様性佐渡戦略の平成31年目標における中間評価を実施し、今後の目標の妥当性と活動計画を検証することが必要。
2	GIAHS推進(東アジア農業遺産学会・棚田景観含む)	B	A	A	GIAHS認定後、5年が経過し、新たなアクションプラン(保全計画)の策定と推進が必要。他のGIAHSサイトに示せるような先進的なアクションプランとそのモニタリング手法を確立する。
3	朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会	B	B	A	朱鷺と暮らす認証制度の品質を高めるための制度見直しと販売促進による農家収益の改善を進める。
5	生物多様性戦略推進事業(東アジア農業遺産学会)	B	A		世界的なGIAHSの発展のために多くの認定サイトを有する東アジア(日・中・韓)のGIAHSに関する研究連携を深めることを目標に毎年3カ国で会議を持ち回り開催する。第2回は平成27年度に日本開催となり、佐渡で開催したが、佐渡における生物多様性保全や農文化の取り組みについて高い評価を受けた。
6	棚田景観維持	B	B	A	棚田散策ツアーなど、棚田における資源を活用し、交流促進を図るための看板整備や景観保全活動を更に進める。
7	佐渡棚田協議会	B	C	A	佐渡棚田協議会における活動をとおり、目標は達成していないが、着実に会員数が増加しているとともに、平成28年度には全国棚田サミットを開催するなど、積極的に情報発信に努めており、今後は棚田の持続可能性について具体的な議論を深め、佐渡棚田協議会の自立的な運営を目指す。
8	全国棚田(千枚田)サミット佐渡市実行委員会				平成28年度に第22回全国棚田(千枚田)サミットを離島では初めて開催する。現在のところ島外から480名の参加者を見込んでいるが、これをきっかけに棚田の持続可能性を高める活動を推進していくことが必要。
Action		◆今後の事務事業の方向性◆			
評価(担当課長)		事業の方向性	維持	予算の方向性	減額
事業の方向性 (事業全体の課題や改善方策など)		生物多様性佐渡戦略の検証を行い、目標の妥当性と活動計画を検討する。また、朱鷺と暮らす郷認証制度をはじめ、佐渡における生物多様性保全の取組みの品質を高めるとともに、GIAHSアクションプラン(保全計画)の策定と他の認定地域の模範となるモニタリング手法を確立していきたい。また、棚田地域の持続可能性を高める活動を推進するとともに、佐渡棚田協議会の自立的な運営を目指す。			